

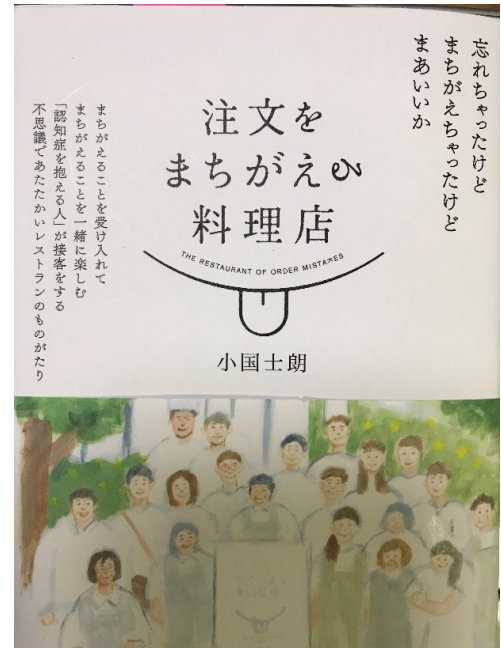
「ボケたらおしまい」という言葉をよく聞きます。ボケないようにと努力している人も沢山います。認知症予防に関するものは注目を浴び、書籍・薬・食べ物・体操と話を聞かない日はありません。でも、本当に「おしまい」なのでしょうか。認知症になっても、なにもできなくなり、何もかも分からなくなるわけではありません。そして認知症の人も社会とつながり、出来ることなら働きたいと思っています。認知症になったから〇〇は無理だと簡単にレッテルを貼ってしまいがちですが、社会に「寛容」の心があれば、そして方法を吟味すれば、決して諦めなくてもいいのだという実例が今回の話題です。

今年の6月東京の一角に「注文をまちがえる料理店」という不思議な名前の店が期間限定でオープンしました。普通のレストランと違うのは注文を取ったり料理を運んだりする接客スタッフが全員認知症の方であることです。料理は都内のレストランのシェフが作り、ベテランの介護士が不測の事態に陥ったときのために待機するそんな中でレストランは開店しました。当日、看板どおり約6割のお客さんに間違いがあったそうです、料理の出し間違いは勿論のこと、自分が接客係であることを忘れ注文を取りに行ったまま座り込んでしゃべりだす、お水を2つ出す、注文を聞いてもすぐに忘れてしまうのでお客さんに注文票を書いてもらう、ホットコーヒーにストローをさす・・・でも、お客さんはにこにこしてその間違いを認め、楽しんでいました。それどころか、まちがいを期待する雰囲気さえあります。レストランに暖かい空気が流れています。そして9割の方がまた来たいと答えるほどの好評ぶりです、9月に再度期間限定で店を出しました。二度目はいろいろ改善した結果まちがいは3割に減ったということです。

働きたい、社会につながりたいという思いは認知症の方だけのものではありません。乳がんにかかった人の約6割の人が「仕事を続けたいと思っている」という記事を最近目にしました。がん患者は治療の副作用で体調が

安定しない、治療のために休まなければならないなど多くのリスクがあります。それでも仕事を続けて社会の一員としての自覚を持ちたいと思うのは、認知症の人たちと同じです。

認知症の人にしても、がん患者にしても働くには多くのリスクがあります。リスクがあるということは、事業主側からいうとコストがかかるということです。そのリスクやコストをどうすれば「価値」に換えられるかが課題です。働きたい、社会参加したいという気持ちや本人の意欲、周囲の理解だけでは、仕事は長続きしません。注文をまちがえる料理店では「注文をまちがわれてうれしかった」「メニューをまちがわれたとき、どれもおいしそうで迷っていたので助かりました」というアンケートへの書き込みがあったそうです。「まちがえる」というリスクが「うれしかった・助かりました」という価値に代わったのです。もちろん注文をまちがえるという



児童館の子どもたちとの食事会 看板を見て来店しているのですから、客は認知症を理解し、ある程度はまち

がってもいい、という寛容な心を持って来店していたでしょう。それでもそのまちがいを「うれしかった・助かりました」というのは、±ゼロではなく、明らかに針は+に振っていることになります。リスクが価値に転換したということでしょう。がんにかかっても仕事を続けている私のリスクは、どうすれば価値に代わるか、それは私の仕事に係ってくる問題だと思っています。



利用者と一緒に里芋の収穫 障がいのある人たちを積極的に取り込み、共生していくことを考えていく必要があります。それが今後の課題だと思います。

その答えの一つは、障がいを認めよう・行動を許そうという寛容な心だと思います。

理解しようという優しさと思いやり。そんな心をもっと多くの人が持てば、もっと住みやすい地域・社会になっていきます。いつかみんな年を取り、身体的な不都合が出てきたり、認知症状が出てきたりします。そんな時、「歩けなくなったらもうおしまい」「認知症になったらもうおしまい」という「おしまいの社会」ではなく、認め・許す「寛容の心のある共生の社会」を目指して、まごころは活動を続けていきたいと思っています。

注文をまちがえる料理店は福祉先進国のノルウェーでも取り上げられ、次のようなコメントがでたそうです。このコメントを今月のまごころだよりの結びとしたいと思います。

「この日本のアイデアは重要な点を示しています。それは、認知症を抱えている多くの人は、周囲から受け入れられ、理解されさえすれば、普通の社会生活に参加できるのです。大切なことは、認知症の人を過小評価しないということです。多くの人にほんの少しいつともより時間をかけ、理解しようという優しさと思いやりがあれば、みなさんの方が大切な何かを得ることになるでしょう。認知症を抱える人も一人ひとり異なります。一人ひとりを個人として理解することが大切なのです」



地域の人たちとの食事会

専正寺報恩講の様子

雪の僧ヶ岳



12月の行事予定

- 5日(火) ハーモニカ演奏
- 6日(木) 小物づくり
- 12日(火) お菓子づくり
- 13日(水) 歌謡ショー
- 16日(土) ピアノ演奏
- 18日(月) 食事会

